

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400134		
法人名	株式会社ホーム商会		
事業所名	グループホーム豊馬の里		
所在地	〒372-0842 群馬県伊勢崎市馬見塚町130-1		
自己評価作成日	平成24年4月10日 作成	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成24年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が安心して、気持ちよく、暮らしていただけるような快適な日常生活と介護を提供しています。
 当事業所では、地域密着型という課題に、認知症高齢者がその人らしく過ごせる場所であり、地域との交流を深め合え「家族のような又は家庭的な」という雰囲気の中で日常生活を営む場を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から1年足らずであるが、家族との良好な協力関係を築き、入居者の支援にあたる。毎月発行の「通信」により事業所の情報を家族に伝えると共に、家族の来所の際には入居者の日常生活の様子を伝えるなど、家族と情報を共有しながら意見や要望等を聞くようにしている。外出行事についても、家族の参加を呼びかけ実施している。代表者も出席する毎月の職員会議では、職員から意見や要望等を聞くと共に、代表者や管理者は、日頃の中で、職員が意見や要望等を言える雰囲気づくりに努め、職員は自由に発言できる状況となっている。事業所は、入居者が居心地よく過ごせるよう建物のハード面にも力を注いでいる。居間兼食堂・廊下など全体的に広いゆとりのある開放的な空間となっている。また、居間兼食堂は、吹き抜けで明るく、柱など木のぬくもりを感じさせ、調理室等からは、フロアの入居者の様子が見渡せるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度、職員全体で(職員会議等)話し合い施設の雰囲気を壊さないよう施設理念に沿ったサービス提供を心掛けています。日頃より職員間での情報共有を行っています。	入居者が家庭的な環境と地域住民との交流の下、人格を尊重され、安心して気持ちよく生活が送れるよう支援することを目指した趣旨の理念を掲げているが、表現が固く、職員や家族等にとってわかりやすい理念となっておらず、共有には至っていない状況である。開設から1年足らずであるが、理念の見直しを検討している。	管理者と職員全員の参画による理念の見直しを行い、事業所が目指すものをわかりやすい言葉で表現し、管理者と職員が理念を共有し、実践につなげていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している保育園との交流をしています。今後、地域を通して幅広く交流を繋げていきたいと思っております。	事業所は、地域との交流を大切に考えており、まずは、近隣の保育園との交流を手掛け、散歩時に保育園に立ち寄りたり、保育園児が来所し歌を歌ったり、折り紙をしたりするなどの交流を行っている。今後は、地元自治会やボランティアグループなどとの関わりを持ちながら幅広い交流を深めていく考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所では、「通信」を作成しています。地域の方々に、地域密着型という枠で認知症の方々の理解を深めて頂こうと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様のご家族にも声を掛け、園外レクリエーションの計画と実施報告、施設の運営状況の報告を行い、その意見を生かしています。	会議には、区長・民生委員・保育園理事長等地域の方や入居者及び家族代表者が交代で参加している。会議は、利用状況・行事報告等がされ、意見交換を行っている。出席者から外出行事の積極的な実施などの意見等を頂き、検討し、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連絡を積極的に生かしケアサービスの向上に努められるよう取り組んでいます。	事業所の代表者が、市の窓口に出向き情報交換等を行っている。また、介護認定の更新時などに随時相談等を行ったり、運営推進会議の時に出席の市の担当者と情報交換したりして、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の場等で、身体拘束をしないケアについて話し合い取り組んでいます。玄関の施錠がありますが、換気のため日中は開放し出入りが自由になっています。	開設当初から玄関の施錠を含め、身体拘束をしないケアを実施している。職員会議や日頃職員間で話し合い、身体拘束について理解を深めている。	身体拘束をテーマにした外部研修の参加や身体拘束の事例についての内部の話し合いを通じ、職員共通理解のもとに身体拘束をしないケアが一層推進されることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の場で、利用者様の現状を話し合い1人ひとりの対応について話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	改善していく点でもあり、管理者と職員の情報共有をしっかりと心掛け、制度理解をしそれらを活用できるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用規約書を作成し、利用者様のご家族に対して説明を行い、家族からの要望や不安等にも答えています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を設置して、ご家族の意見や要望を運営に反映させています。利用者様との日常のコミュニケーション、ご家族が来所された際に情報伝達等行い確認しています。	入居者からは日頃接する中で、意見や要望等を聞くようにしている。また、家族には、毎月1回発行の「通信」により事業所の情報を伝えと共、家族は頻回に来所し、その際に入居者の様子などを伝えるなど、家族と情報共有しながら家族から意見や要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞く機会を設けています。日頃より、職員間で意見を出し合い職員1人ひとりの意見と向き合い、サービス提供に反映させています。	事業所代表者も出席する毎月1回の職員会議で、職員から意見や要望・提案などを聞いている。また、代表者や管理者は、日頃の中で、職員が意見や要望・提案などを言える雰囲気づくりに努め、職員は自由に発言できる状況となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し、1人だけに負担がかからないように職場環境の整備に努めています。各自が仕事にやりがいや期待を持って働けるよう努めていきたいと思っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、管理業務に携わる上での研修等に行ってもらい、職員には認知症ケアの向上に繋がる研修を確認し推進していきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今後、同業者との繋がりを通して広い範囲でサービスの質を向上させていきたいと考案しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様1人ひとりと向き合いながら、本人のニーズについて話し合い、各々が対応できるよう関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にサービスを導入する上での説明をし、不安や要望を聞き、ご家族との関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族にサービス利用を提案し、本人と家族が納得できる対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「指定認知症対応型共同生活介護」という項目を掲げ、利用者様1人ひとりが家族のような関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族も含め、職員が第3者的存在(客観的)に立つのではなく、職員も親身に相手の立場にたち、本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のご家族や馴染みの人に積極的に声を掛け、施設訪問をして頂いています。散歩に出たり、園外レクで皆さんで話し合い、外出したい場所を決め実施しています。	入居者の家族をはじめ、親戚・昔からの友人が来訪している。また、入居者に親しみのある市内の花見の名所などや家族の協力により行きつけの美容院に行くなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーション等で、利用者様同士が関わり合いながら過ごせるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人と家族の必要に応じての相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が安心して、気持ち良く暮らして頂けるよう、本人の尊厳を保てるようサービス提供を今後より一層把握できるよう努めていきたいと思えます。	比較的自分の意思を言葉で表出できる入居者が多く、直接本人から思いや意向を聞くようにしている。困難な場合には、生活歴・日頃の行動や仕草などから、時には家族から聞き、職員同士で話し合うなどして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのプロセスを調べ、サービス利用の経過を把握し、1人ひとりに合ったサービス提供をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を確認するため、1日数回のバイタルチェックをし、異常がないかなど体調管理を行っています。本人の表情や反応を観る等。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングにつき、本人の現状ご家族の要望と意見等踏まえ、職員会議にてケアカンファレンスを行い個々の介護計画を作成しています。	入居者の日々の生活の様子は、各人の介護日誌に職員が記録している。ケアマネジャーは本人や家族から要望を聞いて、職員会議でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。モニタリングは毎月行っているが、介護計画とはかみ合っていない。	介護計画が基本であることを職員全員が認識し、介護計画に基づいた日々の介護実践の記録や振り返り、モニタリングの実施を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議等で話し合い、実践結果や気づきを職員間で情報交換しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族の意見に柔軟な支援ができるように、要望があれば即在のサービスに捉われない事なく、サービスの多機能化、サービスの向上に力をいれています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園外レクリエーションを通して、1人ひとりが心身の力を発揮し豊かで楽しめる暮らしができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	当事業所では、受診を特定の医療機関・医院で行っています。本人及びご家族の了解を得て、適切な医療を受けられるよう支援しています。	家族の同意を得て、現在は協力医がかかりつけ医となっている。往診体制はなく、通院は原則、職員が付き添い、家族と一緒に行く場合もある。受診結果については、電話等で家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	体調管理、薬の配分当は特定の医療機関の医師との連携で、適切な受診を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師との情報交換に努めています。ご家族からの情報交換や相談、早期退院に向け話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・ご家族等と話し合いの場を設け、早期対応をできるように事業所ですべてを十分に説明しています。重度化した場合の対応につきご家族と話し合っています。	入居時に家族に対し、痰吸引等の医療行為を伴う状態になった時には、事業所では対応できない旨を口頭で説明しており、職員もその方針を共通理解している。	重度化や終末期の過ごし方について本人や家族の希望や意見を聞きながら、かかりつけ医と相談し、事業所の指針を検討し作成することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「救急車要請マニュアル」「応急手当テキスト」を用いて、全体の職員が把握しておけるよう指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火災用品を事前に準備し、施設連絡網を使用し、状況に応じて避難できるよう対応しています。年2回防火訓練を行っています。	年2回、消防署立会いの下、通報・避難誘導・消火訓練を行っている。訓練時には、近所の人にお知らせを配布したり、区長や民生委員の運営推進会議のメンバーも参加したりしている。また、備蓄については、水・懐中電灯を用意している。	年2回の訓練に少なくとも1回は夜間想定も取り入れることを期待したい。また、一連のマニュアルを作成し、いつでも役割等を確認できるようにすると共に、地域との協力体制についても構築に向けて検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの際、相手のプライバシーを損ねない言葉使いを行っています。「笑顔」というところに要点を置き、本人が安心して過ごせるよう心掛けています。	基本的には敬語を使い、「さん」付けで呼んでいる。排泄の際は、トイレのドアを閉めて、職員は外で見守り 必要時、ノックしてから介助を行なっている。人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立して行えるものには、積極的に取り組んで頂いています。洗い物、洗濯物たたみ、お掃除のお手伝いetc.		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんが一つの家族です。職員側が決まりや都合のよい事を優先するのではなく、1人ひとりのペースを大切にしていきたいと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に「今日はこのお洋服にしますか?」「これとか似合いますね。」等、自己決定させられるよう対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒に食事の片づけをしたり、洗い物をしたりと楽しみながら行っています。	宅配業者に食材を委託し、職員が調理している。家族から頂いた野菜などは適宜調理に組み入れたり、おやつなどには入居者の希望を反映させたりしている。下膳や洗い物は、入居者の能力を活かし職員と一緒にやっている。代表者が時々一緒に食事をするが、職員は見守り等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランス・カロリーは、調理食材配材サービス機関にて管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕に毎食後口腔ケアを行っています。歯科衛生士による、口腔状態も確認しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立にむけ、本人に自立意志をもたせらるよう、できる場所は見守り介助・軽介助等で行い、できないところは職員が常時介助するように支援しています。	排泄記録表を作成し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導など状況にあわせてトイレでの排泄にむけた支援を行っている。夜間に失禁が多い人には定時の巡回時に声かけし、トイレに誘導し、おむつ使用にならないよう自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設内の廊下を散歩したり、リハビリ体操・レクリエーション等行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていますが、その日に入浴とは限らず次の日もしくは本人の希望日という形をとっています。	入浴日を月・水・金に決めているが、入居者の状態や拒否した場合などには、無理強いせず、臨機応変に他の日に変えて入浴して頂くようにしている。また、入浴剤を用いて、入居者が楽しめる工夫をしており、音楽を取り入れることも検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えられるよう心掛けています。眠剤の服用有無に際して、薬だけに頼るのではなく、眠れなかった場合のみ服薬できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	特定の医療機関と相談し、現状を確認して頂いた上で対応しています。服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園外レクリエーション・施設内レクリエーション・工作等で、一人ひとりの役割と楽しみを増やし、満足して頂ける又は気分転換して頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	園外レクリエーションでは、利用者様のご家族にも声掛けをし、積極的に参加して頂いています。職員と一緒に買い物へ出かけたり、散歩したりしています。	日常的には、事業所周辺を散歩したりしている。市民の森公園、せせらぎ公園、小菊の里など季節の外出行事を企画し、家族にも参加を呼びかけ実施している。また、行きつけの美容院に家族が連れていったり、フードコートで各人が好きな物を食したりできるよう、個別的な外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は当事業所・ご家族間で管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承を得て、本人に電話や手紙等のやりとりもできるように支援していきたいと思えます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の清掃は毎日行っています。職員と利用者様で作成したもの等の掲示・装飾をして、居心地良く過ごせるような工夫をしています。調理室は、調理室よりフロアが見渡せ状況すぐわかるようになっています。	居間兼食堂・廊下など全体的に広いゆとりのある開放的な空間となっている。居間兼食堂は、吹き抜けで天井が高く、明るく、柱など木のぬくもりを感じる。コーナーにソファが配置され、テレビを囲んでくつろげるようになっている。また、調理室からフロアの入居者の様子が見渡せるようになっており、入居者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にフロアソファがあり、そこで気の合った利用者様同士で談話したり、テレビ観賞をできるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のご家族のお写真・使い慣れたもの等を装飾し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。	居室入口には、各人の好みの絵や写真の額が掛けられ自室と認識しやすくなっている。使い慣れたタンス、テレビ、鏡台、小物類などが持ち込まれ、家族の写真、鉢植えの花などが飾られ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが自立した生活が送れ、皆が家族であるような環境づくりをして、安全で本人が自立した生活ができるよう工夫しています。		